

自由であり続けるために、

JIYUU DE ARI TUDUKERU TAMENI

僕らは夢でメシを喰う

新装版

BOKURA WA YUME DE MESHI WO KUU

自分の本

[監修]

SANCTUARY
BOOKS

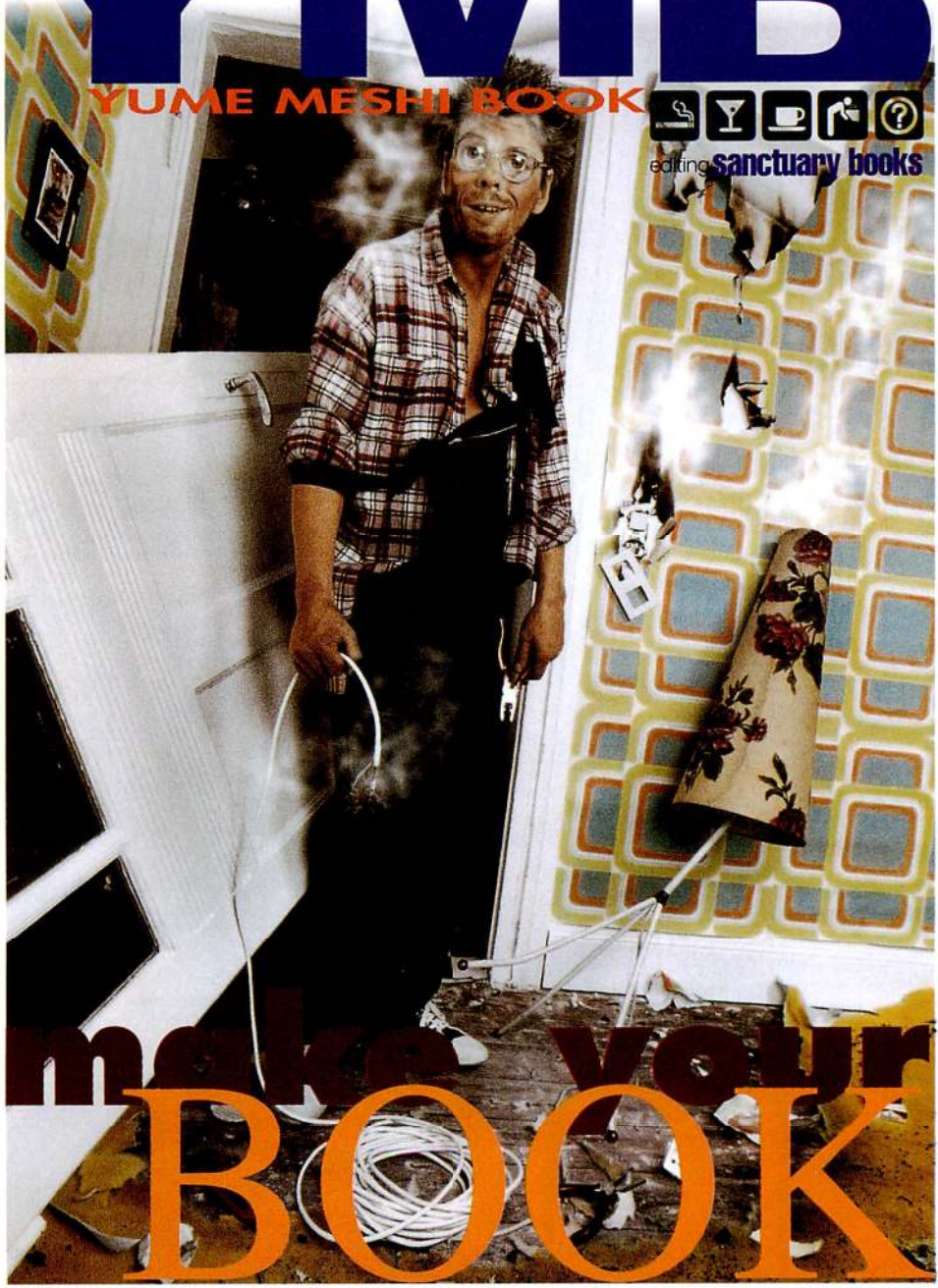
SANCTUARY BOOKS

YUMB

YUME MESHI BOOK



editing sanctuary books



make your
BOOK

SPINNY

>>SPIRITS 001



CHANGE

A photograph of three people sitting on a patterned carpet, each wearing a different style of lampshade as a hat. The person on the left is a man in a dark suit and tie, smiling and holding a book titled 'BOOK LIFE'. The person in the middle is a woman in an orange blazer and skirt, holding a book titled 'BOOK LIFE'. The person on the right is a man in a dark suit and tie, holding a book titled 'BOOK LIFE'. The background is dark and textured.

自分の世界を表現するために…本を出す。

自分の本を創るのは、自分探しと同じ行為だ。

誰にでも「自分だけの世界」があり、誰にでも「自分にしか創れない本」がある。

「WHO AM I?」

自分はどんな人間か、自分はどう生きたいのか、自分は何を伝えたいのか。

本を創ることで、自分との会話が始まる。

本を創ることで、自分への旅が始まる。

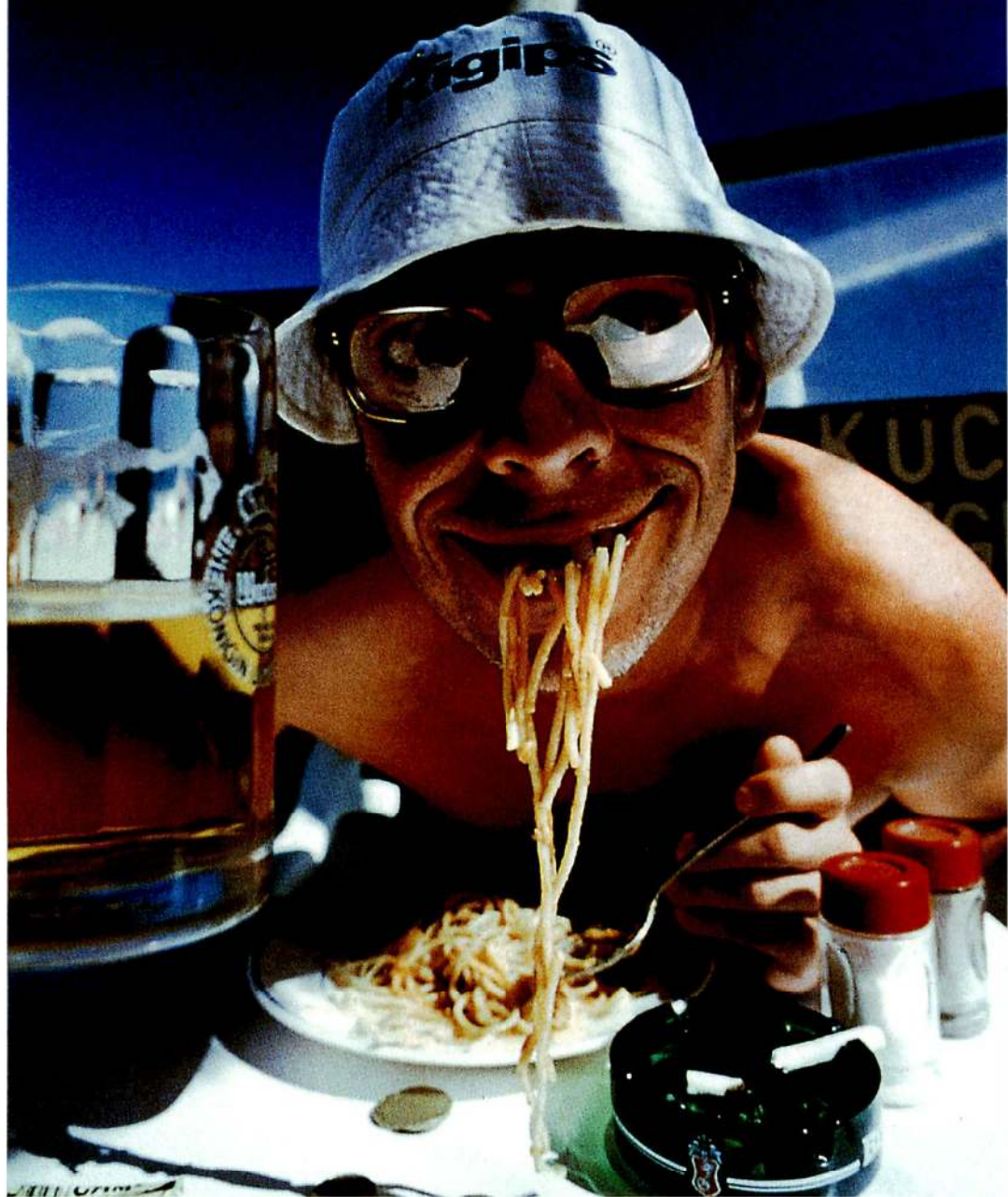
そしてそのプロセスが、本という「生きた足跡」になる。

YES! 自分のカラーで勝負しよう。

YOUR LIFE!

SPIRITS

>>SPIRITS 002



TRUE PARADISE

**好きな場所で自分らしく暮らすために…
本を出す。**

自分の好きなスタイルで、気ままに生きていきたい。

世界中を旅しながら、最高の場所で、最高の作品を創り続けていきたい。

南の島で文章を書いたり、アフリカで写真を撮ったり、

ニューヨークで絵を描いたり…。

作家としてメシが喰えるようになれば、好きなどころで暮らしていける。

作家として名前が売れば、いつでも好きな場所に動いていける。

作家という肩書があれば、会いたい人にすぐ会える。

好きな場所がはっきりしたなら、どうするか。

好きな場所で本を書く。

世界中、どこに行っても、本のネタはあるのだから。

SPIRITS

>>SPIRITS 003

SOUL MATE

読者という最高の仲間を得るために…本を出す。

「本の出版」という結果を出すことから、何かが始まりそうだ。
「自分の本」がヒットすれば、読者から素敵なメッセージが届く。
世界中のいろんな仲間とアクセスできる。
自分と無限大の仲間をつなぐ夢の架け橋…それが「自分の本」だ。
本を出せば、自信が生まれる。怖いものなんてなくなる。
成功か失敗か、なんて究極の問題じゃなくなる。
本が全てじゃないかもしれない。
本がゴールじゃないかもしれない。
本創りで得た経験や出会いが、新しい夢を創ってくれるかもしれない。
本の出版を自分伝説の第一歩にしよう。



SPIRITS

>>SPIRITS 004

お金は全てではない。大切なことは他に沢山ある。
やりたいことも数え切れないほどある。
だけど、お金があればできることも、また沢山ある。
欲しいもの、買いたいものも山のようにある。
大きな夢や計画への道具としても使うことができる。
いい本を創る。それを一生懸命売る。
いろんな作戦を考えて仲間と仕掛ける。
マスコミに取り上げられて話題になる。
本屋からの注文で電話がバンクする。
読者の口コミが広がる。どんどん増刷される。
大ヒット！ 著者への取材が殺到！ 講演会なんかも依頼される。
ミリオンセラー到達！ 印税一億円突破！
自分の本がヒットすれば、本屋も読者も自分もみんなハッピー。

GOLD RUSH

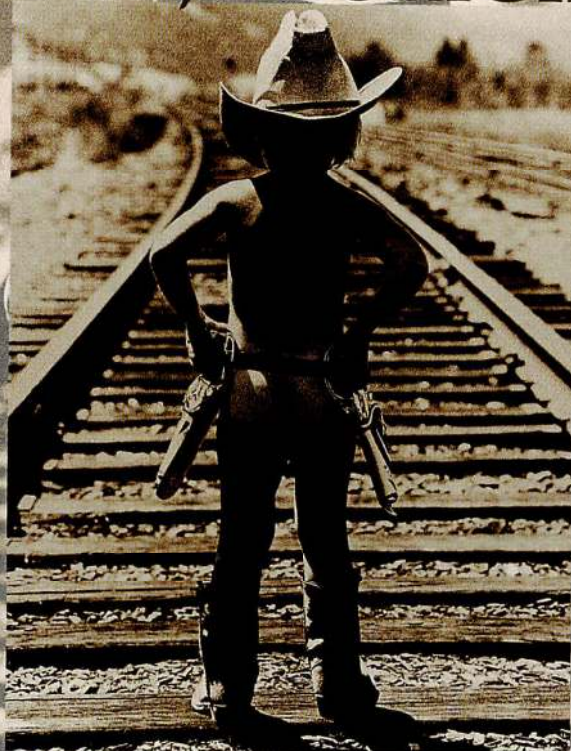
莫大な大金を稼ぐために…本を出す。



SPIRITS

>>SPIRITS 005

BE COOL, BE ORIGINAL



カッコよく、オリジナルに生きるために… 本を出す。

人は誰でも、「自分」という人生の表現者だ。

いかに美しく、いかに過激に、いかにカッコよく、いかにセクシーに、
自分の人生をデザインするか。

映画を撮れなくても、音楽の才能がなくても、テレビに出れなくても、特別な才
能なんて無くても、本を創ることでオリジナルの表現ができる。

作家として、「自分の本」という生き方を発表するのは最高に楽しい。

本は自分の分身でもある。

カッコいい本を創ろうとするうちに、自分自身のカッコよさが磨かれていく。

オリジナルな本を創ろうとするうちに、

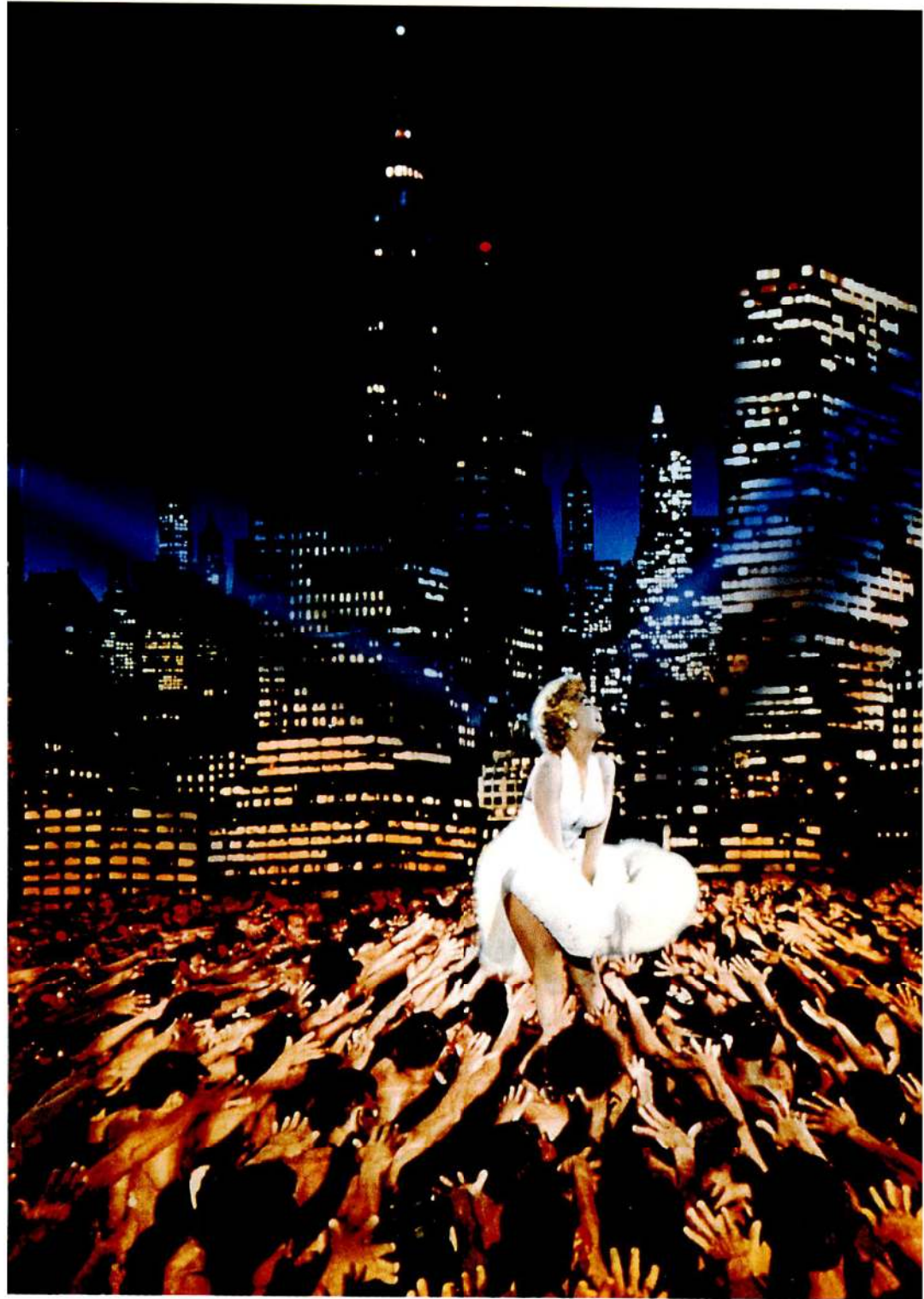
自分自身のオリジナリティーが際立ってくる。

「自分の本」を創ることで、自分が輝き始める。

ZERO START

ゼロからスタートするために…
本を出す。

過去は振り返りたくない。過去の自分を
全てを捨てて、ゼロから始めたい。
世間、会社、両親、友たち…自分を取り巻くあらゆる環境から自立するために
本を出版する。
今までの自分から脱皮して、全く新しい自分を創るために本を出版する。
これまで守ってきたもの、ずっと縛られてきたものを切り捨て、
思い切ってゼロから始めよう。
生き方をシフトすれば、人生はこんなに気軽に楽しく、
メチャクチャ面白い。



SUPER STAR

有名になるために…本を出す。

平凡なまま一生を終えたくない。
有名にしかなりたくない。
読者やファンに囲まれて生きていきたい。
「自分の本」が売れば、世間の注目が集まり、
自分を特別な人として扱ってもらえる。
それも、本が秘めている大きな力のひとつ。
「有名人＝ハッピー」というわけじゃないが、
有名人だからこそ、見えてくる世界もある。
もちろん、無名のままだってかまわない。
でも、有名になることを否定する必要もない。
世間に自分の存在をアピールし、
より多くの人に「自分の本」を読んでもらおう。



SPIRITS

>>SPIRITS 008

退屈な人生に別れを告げよう。本を出すというのは大仕事だ。
ギャンブルだ。精神力も使う。金になるかどうかさえわからない。
でも、だからこそ楽しい。

一日一日が、ドキドキとワクワクの連続。

何を知るのか、何が起こるのか、誰が眺んでくれるのか…。

本を出すことで毎日が冒険になる。

同じレールの上を行ったり来たりする、今までの安定した先の見えぬ生活から
いつも刺激的な魅力あふれる生活にシフトしよう。

一枚の紙の上だって、ちゃんと冒険はできる。



ADVENTURE LIFE

毎日を冒険のように生きるために…本を出す。

NO! MARIONETTE



**他人に使われず、
自分勝手に生きるために…本を出す。**

就職しないで生きていきたい…「自分の本」を出せばそれが可能になる。
誰にもコキ使われず、会社にも縛られず、競争社会からも自由に、
自分勝手に生きていける。

「会社に就職する」ということは、人生にある無数の可能性の、
ほんの一つの選択肢でしかない。もちろん会社に入っても楽しくやっていける。
安定を得られるし、それなりに夢だって持てる。

ただ、つまらないルールや常識が多すぎる。
「自分の本」では自分自身がルールブックだ。

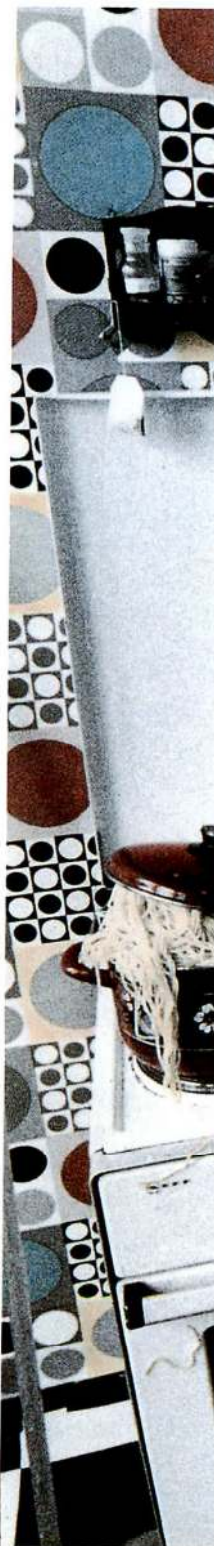
成功も失敗も、全てが自分次第。

本が売れたらヒーロー、売れなくても、経験という素晴らしい財産が残る。
恐れることは何も無い。自分のカラーで勝負すればいい。

BACK TO YOURSELF

自由であり続けるために、 自分であり続けるために… 本を出す。

たった数十万円の生活費のために、
「自由」と「自分」を売るのはバカげている。
なりたい職業をムリに探すのはやめる。
つまらないと感じる仕事をイヤイヤ続けていてもしょうがない。
仕事は探したり選んだりするものじゃなく、
自分で創って、育てていくものだ。
「自分の本」を出せば、自分のやりたいことが、
そのまま自分の仕事になる。
「出版とはこうあるべきだ」という概念にもとらわれず、
自分の好きなことを、好きなだけ表現すればいい。
そこらへんの本とはまるで違うスタイルの、
自分だけのオリジナルの本を創ろう。





**TO BE YOURSELF
ALL THE TIME.
TO KEEP YOURSELF FREE
ALL THE TIME.**



**YES!
WE ARE FREE!!**



DREAM

★ PROLOGUE

自由であり続けるために、僕は夢でメシを喰う

YUME-MESHI



DREAM

夢でメシ

「まずまずの人生」をこのまま送るか、「2度とない人生」を求め続けるか。
僕らは、人生のクロスロードに立っていた。

僕らの毎日は、同じレールの上を行ったり来たりだった。このままだと、
ボケーっとしている間に老人になって、思い残したことだらけのまま死んでしまう。

「こんなじゃダメだ。とにかく今の生活を捨てよう」

僕らはそう決心した。

迷いもあったけど、退屈に殺されるよりはマシだと思った。

そして、なんのあてもなく会社を辞めてドロップアウトした。

同時に、すべてを失い、すべてを手に入れた。

これまでに手に入れたそこそこの学歴、そこそこの収入、そこそこの評判
を捨て、「将来の保証」を失ったかわりに、僕らは「今、好きなことをする
自由」を手に入れたんだ。

最高の気分。

自由って何だろう。なんにも考えずに、毎日ブラブラ過ごすこと？

それも悪くないけど、僕らが選んだ自由は「自分の好きな本を創って、そ
れを売りながらメシを喰うこと」だった。

本を創るのってなんか楽しそうじゃん。あんまり難しいルールも無さそう
だし。

そこで僕らは、金目のモノをすべて売り払って生活費を確保し、全くの無
知のまま好き勝手に本を創り始めた。

は喰える

汚いボロアパートに集まって本の企画を練り、海や山や街を駆けずり回って取材し、いろんな人々と出会い、何日も徹夜で原稿を書き、デザインを勉強した。とにかく「本みたいなモノ」を創ろうと必死になった。

「自分の本」を創り始めてからの毎日は、新しい発見や出会いにあふれていた。もちろん決して楽じゃなかったけど、「1冊の本創り」が巻き起こす数々のドラマの中で、自分自身の成長を感じることができた。毎日が冒険みたいだった。

そして何よりも「自分の本」が完成した瞬間は、マジで感動ものだった。ゼロから物が生まれるって、たぶんスゴイことだ。

それから数年。数多くの出会い、経験、夢、表現力、そして自信を育みながら、僕らの本は世に出版され続けている。

「自分の本」というスタイルとの出会いをきっかけに、自分らしく自由に生きていける楽しさを知った僕らは、その想いをこの本に込めた。

「自分の本」でHAPPYになるためのスピリッツ。

「自分の本」をイメージするためのブックカタログ。

「自分の本」を創るための製作マニュアル。

「自分の本」を売るためのリアルアクションガイド。

無一文、未経験、コネなしからスタートして、「自分の本」という夢を実現するために必要なエッセンスは全て書いてある。

この本と情熱さえあれば、「自分の本」は必ず創れる。そして売れる。